

岐阜県嚥下障害研究会
モグモグ通信
 No. 4 (2005. 9 発行)

11月20日の
 第8回学術
 講演会・総会
 (高山大会)に
 ぜひご参加
 下さいね!



発行所:岐阜県嚥下障害研究会
 事務局:木沢記念病院 ST室

歯科を含めたチーム医療



岐阜県歯科医師会 (土田 歯科)
 歯科医師 土田 治

この頃では歯科医師も、診療室を出て病院や介護施設という新しい環境の中、“患者様の主治医はもちろん他職種の方と連携し診療を行う”という新しいチーム医療のもとで臨床を展開するようになってきました。

一般に口腔の機能障害が発生する状況は、脳血管障害の発症に伴って多く見られます。それは、口腔の機能障害が口腔だけの局所性の問題のみでなく、中枢性の障害によって発生することを明らかにしています。

けれども、多くの病院では主訴となる疾患の処置が終了すると、口腔の機能障害が残った状態であったとしても、ひとまず退院ということになります。そこに「食べられない、飲み込めない、話せない、・・・」といった後遺症が残り、居宅での療養生活のQOLの低下を招き、患者様を苦しめることとなります。

このような問題の中で、口腔の障害の発生に際し早期に対応することが必要となってきます。そのために、入院時のベッドサイドからの歯科の関わりが

発生します。できるだけ早期に口腔ケアを始め、むし歯や歯周病を予防して、口から食べることにより可能な限り口腔機能の低下を防ぐことが歯科医師に強く求められます。

一般に病院の環境の中では、医師を中心として看護師、薬剤師、OT、PT、ST、栄養士など様々なスタッフが、患者様の主訴への対応のために連携し処置を行っています。

これまでは、歯科医師や歯科衛生士などの歯科関係者がそのチームのもとにいることはほとんどありませんでした。それは、歯科関係者が全身的な疾患への関わりが希薄であったためでしたが、その反面病院内でのスタッフによる口腔の問題に関する対応は決して充分ではありませんでした。

しかし、嚥下性肺炎など高齢者の致命的な状態が発生する中で、口腔に関するケアと介護者への管理指導の重要性が認識されてきました。

このような状況の中で病院での口腔リハビリテーションは、口腔の障害の発生段階から栄養補給の問題を含めて、チームを組んで患者様の生活復帰に向けた包括的な関わりを持ちつつ、医科と歯科との連携が今後発展していくことに期待が持たれております。

成人勉強会レポート

「第1回成人勉強会に参加して」

老人保健施設サンバレーかがみ野 ST 阿部 忍
 私は老人保健施設でSTとして 摂食・嚥下療法、言語聴覚療法に携わり始めて3年目となりました。この間に『言語にも嚥下にも深く関わってくるのが呼吸である』ということを実感する場面が数多



実技風景

くあったように思います。

日々の臨床場面では、胸郭の動きが出にくく呼吸が浅い方、嚥下と呼吸の協調運動が上手く行えずに誤嚥の危険性が高い方、どうしても誤嚥性肺炎を繰

り返しやすい方などを対象に まさに施行錯誤しながら患者様と関わらせていただいています。

このような中で、今回の勉強会「摂食・嚥下障害と呼吸理学療法～理論と実際～」はとても興味深く勉強になりました。講義の中では肺や肺炎などについて分かりやすく説明していただい、また演習では正常な呼吸音を実際に聴診する機会もあったりと、実に多くのことを学ばせていただけたと思います。

そして、講義で紹介されていた体位排痰法については私どもの施設でもケアの中に取り入れていきたいと思ひます。

今回参加して、嚥下リハに携わる者として他職種との連携が非常に大切であると再認識できました。今後も 様々な側面から摂食・嚥下障害を学ぶため、成人勉強会に積極的に参加したいと思ひます。

(6月25日 参加者75名、講師：岡村秀人先生)

「富田先生の講義を聴いて」

岐阜県立多治見病院 ST 松原亜希子

先日8月6日(土)に木沢記念病院中部療護センターに於いて、藤田保健衛生大学教授、富田昌夫先生の講義がありました。「摂食・嚥下障害に対する理学療法的アプローチ」をテーマに、発生・発達学的内容から臨床場面に於ける訓練のお話まで、2時間に及ぶ貴重な講義となりました。

STの私にとって、理学療法的アプローチや姿勢の問題といったことは専門外の事柄で、お話の内容についていくことができるかどうか、内心心配していました。しかし専門用語をあまり使わず、平易な言葉で話されていたので、専門的な知識が無くても理解することができたと思ひます。また先生の話方は柔らかいのですが、一つひとつの言葉に先生の強い思いが込められているようで、思わず聞き入ってしまいました。

どのお話も興味深いものだったのですが、私が特に興味を持ったのは、表情筋を動かすことでその人の心理面に影響を与えることができるということと、舌が姿勢

に重要な役割を果たしていることの2つでした。表情筋や舌は話す時や食べる時に機能的に働くための器官であるというのが私の認識だったのですが、それだけではなく姿勢や内面にも深く関わっていることを知り、驚きました。これからはそういった観点も頭に入れて、日々の臨床に活かしていきたいと思ひます。

嚥下訓練においては様々なアプローチ法があり、それぞれの専門知識を持ち寄ったチームアプローチが大切であり、同時に携わるそれぞれが互いの観点を理解することが更に大切だと思ひました。

(参加者98名、発生学も含めて新たな視点を探る)



講義風景

「初級課程講習会に参加して」

サニーサイド・ホスピタル 栄養士 木澤たかね

2年前に病院栄養士となり、嚥下という言葉すらなじみがなく「プリン食(当院の嚥下困難食)?」、「誤嚥性肺炎?」といった状態の時に当研究会のことを知り、以来参加させていただいています。そして、今回やっと初級課程講習会を受講することができました(1年目に受けたかった!)

午前中の講義では100枚以上のスライドを用い丁寧に説明して下さり分かりやすかったです。むせのない誤嚥の恐ろしさや嚥下反射の時間が昼夜で梗塞の有無によって数倍も差があることなど特に印象深かったです。

午後、お茶とかがっばえびせんで何が始まるかと構えていたら、「口を閉じずに噛んで飲み込んで」と…。『う～ 噛めない、飲み込めない!』ふだん何気なく行っている“咀嚼⇒嚥下”が患者さんに



演習風景

とっては大変なことなんだと実体験できました。当院でも食事にお茶ゼリーを付けていますが、VF画像を見てその意義と役割が納得できました。

口腔ケアの講義では、ケアの重要性が再認識できました。当院の患者さんは義歯の方がほとんどですが、合っていない方が多く、治せば形のある

ものが食べられるのにといつも気になっています。口腔ケアの大切さをいろんな職種の人にもっと知ってほしいと思います。

講習会では歯磨きや舌の運動などの実習もあり内容も盛りだくさんで、あっという間の4時間でした。

豊島会長さんが言われたようにこれでやっと入り口に差し掛かったところなので、これからもどんどん勉強会に参加しスキルアップを図りたいです。そして、当院のOTさんが3名受講していたのもうれしかったです。

最後に、講師の先生方、スタッフの皆さん、ありがとうございました。

(8月20日、参加者・スタッフ86名、楽しく開催)



「木村先生のお話を聞いて」

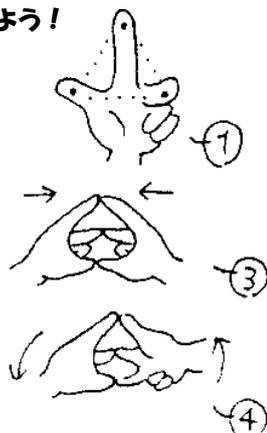
静岡医療福祉センター OT 加藤夏帆

OT木村順先生の講義をじかにお聴きするのは今回が初めてでした。とても具体的で、息子さんのトキオくんをモデルにデモンストレーションしたりなど内容も盛りだくさんで、あっという間に丸1日に及ぶ研修が終わってしまった感じです。

さて、講義の中で発達障害のお子さんの大変さを実体験する場面がありました。「両手の親指・人指し指・中指を正三角形にして合わせ、号令に従って手首を回転させ一つずらして元に戻し、次は逆方向に…」を繰り返すものです(実際に受講した方でないイメージが文面ではなかなか伝わりづらいかとは思いますが)。これがいざやってみると

皆さんもやってみよう!

- 1・始めに左手の3本指で正三角形をつくって～
- 2・右手も同じようにして～
- 3・それぞれの指を合わせて～
- 4・回して～
- 5・また合わせて～
- 6・逆回転して～……



自分の指がどうなっているのかよく分からなくな



ってくるし、号令の声にどんどん焦ってこんがらがっていくし…で とにかく難しかったです。日頃『子どもさんの大変さを理解しよう、理解した上での関わり方をしよう!』と思って接していたつもりでしたが、実際に自分の体を使って経験してみると 活動自体がこんなにも大変で、その上頑張ってもできないことに周りから色々言われることの辛さ、周りには出来て自分には出来ないということのはがゆさが深く理解できた気がします。

今回のように実体験を通してその大変さを理解できると お子さんの印象そのものや関わり方も変わってくるなぁ～と思います。そう考えると、療育に携わる中でお子さんの成長を支援することももちろん、お子さんと関わる人達に少しでもこういった大変さを具体的に(!)伝えていかないといけないな…と改めて思いました。そうすることで、自分を含め お子さんたちのよき『理解者』を増やしていくお手伝いができたらいいなと思い

ます。

「目からうろこ」の講習会でした！」

岐阜県立関養護学校 小学部 教諭 鹿島成美

「う～ん、気になるなあ」、「よしっ、こうしてみよう」、「う～ん、うまくいかないなあ・・・」楽しく、楽に、安全に食事ができることの難しさを改めて感じていた矢先この講習会の開催を知り、迷わず申し込みました。

1日半の講習会を通し、講師の野村先生が理論・実技共に本当に丁寧に、毎日指導の現場に立っている私たちと同じ視線に立って指導してください『うん、そうやった。これが大事やった!』、『そっか、ここに目が向けられていなかったんや』等々、目からうろこが何枚も何枚も落ちていきました。特に、『口唇閉鎖』の大切さについて解剖を踏まえて話していただけ、その必要性（不可欠さ）を改めて考え、理解することができたように思います。

(6月4日、参加者141名、満員御礼にて開催！)



実技演習風景

また、実技の時間にパートナーの方と納得するまで何度も何度も確かめていけたことも、とてもためになりました。

落としたりうろこを再装着することのないように、これからも頑張っていきたいと思います。

ありがとうございました。

(8月20日～21日、57名にてじっくり研修、講師：埼玉県立熊谷養護学校 教諭 野村春文先生)



平成17年度 成人勉強会について

■第3回勉強会

日時：平成17年10月1日(土) 午後2時～4時

場所：木沢記念病院 中部療護センター3F 討議室

内容：「口腔ケアの実際」

講師：栗木みゆき先生(訪問歯科衛生士)

多治見市歯科衛生士メンバー 2名

参加費：会員 1,000円 非会員 1,500円

備考：実技のできる服装でご参加下さい。

受付
終了

■第4回勉強会

日時：平成18年1月21日(土) 午後2時～4時

場所：木沢記念病院 中部療護センター3F 討議室

内容：「口腔ケアの実際」

講師：栗木みゆき先生(訪問歯科衛生士)

多治見市歯科衛生士メンバー 2名

参加費：会員 1,000円 非会員 1,500円

備考：実技のできる服装でご参加ください。

受付
終了

■第5回勉強会

日時：平成18年3月25日(土) 午後2時～4時

場所：木沢記念病院 中部療護センター3F 討議室

内容：「症例検討会」

参加費：会員 500円 非会員 1,000円



— 編集後記 —

「モグモグ通信」、昨年秋に皆様の前に目見えして 早1年が過ぎようとしています。そして、今回 第4号発行を迎えることができました。今後も今のペースで 編集・発行できれば・・・と思います。

巻頭言や感想のご依頼をさせていただいた折は ご協力お願いいたします。(T.T.)

*第3回および第4回勉強会は定員に達したため、受付を締め切らせていただきます。

*受講可能の通知を受けられた方で、お申込みをキャンセルされる場合は 早めにご連絡願います。

◆第5回勉強会への参加希望者は、下記の事項を記入の上、FAX または郵便にてお申込み下さい。

記入事項：氏名、職種、勤務先・所属、連絡先(自宅 or 勤務先)、会員か非会員か

*会員の場合は、個人宛の案内封筒のラベルに会員番号が印刷されています。

申込先：〒509-5211

土岐市土岐津町土岐口703-24

土岐市立総合病院 リハ部 加藤孝憲 宛

FAX (0572) 54-8488